

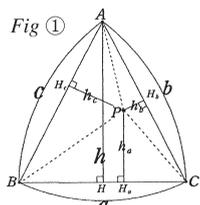
新版数学 A 課題学習
「油分け算」を三垂線座標で解く

平成 24 年度から、「数学 I」「数学 A」で課題学習が扱われることになった。ここでは、実教出版の「新版数学 A」で扱われた「油分け算」について、三線座標で解く方法を紹介する。

課題 10L の容器 A に油が満たされている。この油を空の 2 つの容器，7L の容器 B と 3L の容器 C とを使って，5L ずつの半分に分けるにはどうすればよいか。

この問題を解くのに，次の定理を使う。

定理 正三角形の内部，または，周上の点 P から三辺に下ろした三垂線の長さの和は，一定である。



一辺の長さを t とし，正三角形の内部の一点を P とし，三垂線の長さを h_a, h_b, h_c とし， A からの上垂線の長さを h とすると，

$$\triangle ABC = \triangle PAB + \triangle PBC + \triangle PCA$$

これにより， $\frac{1}{2}th = \frac{1}{2}th_a + \frac{1}{2}th_b + \frac{1}{2}th_c$

ゆえに， $h = h_a + h_b + h_c$ が成立する。

このことより，各辺から高さを座標として，以下の Fig ② のような三線座標を考える。

例えば，Fig ② の点 P の座標は，辺 BC からの高さが 5，辺 CA からの高さが 3，辺 AB からの高さが 2，であるから $P(A, B, C) = (5, 3, 2)$ と表す。

さて，この課題の三線座標は，頂点までの高さを 10 とし，また， B の容器の制限， C の容器の制限を Fig ③ のようにとると，題意に適する格子点の領域は

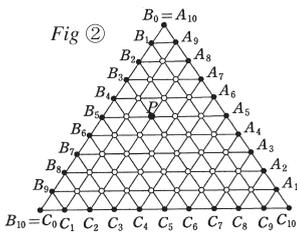


Fig ③ のような平行四

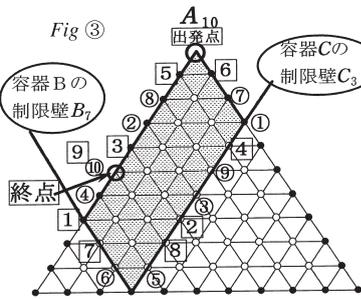


Fig ④

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
A	10	7	7	4	4	1	1	8	8	5	5
B	0	0	3	3	6	6	7	0	2	2	5
C	0	3	0	3	0	3	2	2	0	3	0

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
A	10	3	3	6	6	9	9	2	2	5
B	0	7	4	4	1	1	0	7	5	5
C	0	0	3	0	3	0	1	1	3	0

Fig ⑤

このような操作を続けて，最終点 $P(5, 5, 0)$ に達する方法を探し出す。以上がこの課題の三線座標を用いた解法である。

この操作より以下のようなことが判明される。

- Ⅰ この問の解法には 2 通りあり，①～⑩の場合 10 回の移動，①～⑨ の場合は 9 回の移動が必要であり，最少の移動は 9 回である。
- Ⅱ ①～⑩ の手順では B の壁で 1 回反射し， C の壁では 4 回反射している。これは，容器 B と容器 C との最終時に 5L の差があることから $7x + 3y = 5$ の二元一次不定方程式の整数解，すなわち， $7 \times (-1) + 3 \times (4) = 5$ で $x = -1, y = 4$ の整数解を表している。同様に，①～⑨ の場合も反射回数から $7 \times (2) + 3 \times (-3) = 5$ より $x = 2, y = -3$ の整数解を得る。
- Ⅲ Fig ③ の平行四辺形の壁の座標からわかるように， A, B, C のいずれかの容器に 1L～10L の油を分けることも可能であることを知る。
- Ⅳ 「油分け算」への解法他に，この三垂線座標の格子点の数は【3 種の異なる物から重複を許して 10 個の物を取り出す組合せの数】を表している。Fig ② より格子点の数は， $1 + 2 + 3 + \dots + 11 = \frac{11 \times 12}{2} = 66$ であり，重複組合せの ${}_3H_{10} = {}_{3+10-1}C_{3-1} = {}_{12}C_2 = \frac{12 \times 11}{2 \times 1} = 66$ に一致する。